

地産地消推進委員会ニュース 2015年 No.2

2015年11月 生協ひろしま地産地消推進委員会

大雨などの影響で、予定されていた7月「於手保あきろまんの会」の草刈り、9月「らんらん交流会」は中止に、7月「本田さんのフルーツ人参」の産直提携調印式は11月に延期になりました。組合員の日から見た、生協ひろしまの地産地消の活動をお知らせします。

「幸水梨・豊水梨」産直調印式

8月29日(土)、JA尾道市「幸水梨・豊水梨」の産直提携調印式、栽培地(世羅大豊農園と世羅幸水農園)の視察を行いました。大量の堆肥を投入しての土作り、糖度が高くなる“無袋栽培”の栽培で、どの木も葉っぱが茂っていました。(葉の数が多いほど甘い梨が育つそうです)。

梨栽培は、摘蕾作業(8~9割花台からつぼみを取る)など、機械化出来ない作業もあるとうかがい、梨栽培の大変さを感じました。

強い風が吹いても梨が落果しないよう枝を支柱にしばり付ける棚仕立てで栽培されていて、今年の台風15号の影響もあまり無かったそうです。

選果場には15年前から光センサーが導入されていて、糖度仕分けが出来、低糖度果・芯腐れ果の排除が出来ています。

両農園とも、たくさんの農家が集まって経営する協業経営。「梨作りを共同でする事で後継者が育つ」と将来も安定した梨園経営の展望を持っておられました。



ニューベリーA産直調印式・第5回もっとひろしま天然スイーツ交流会

9月5日(土)、福山市で『第5回もっとひろしま天然スイーツ交流会』、そして交流会の中で沼隈町果樹園芸組合とのニューベリーAの産直提携調印式を行いました。

選果場で説明を受け、化粧箱を組み立て、ぶどう畑でおいしそうなニューベリーAを選んで収穫しました。種なしのニューベリーA、ピオーネだけでなく、皮ごと食べるシャインマスカット、瀬戸ジャイアンツなどの試食や、粒数当てクイズなど、生産者・組合員一緒に楽しんだ後、結婚式のようにちょっと厳粛な空気の中、調印式を執り行いました。

・・・沼隈のぶどうはベリーええよ・・・



袋の中のぶどうを確認。はさみで切って収穫「下に手を当てていないと落ちちゃうぞ」



42haの安全安心なぶどう畑の前で



(左) 沼隈町果樹園芸組合横井組合長
(右) 生協ひろしま福山専務理事
これからも末永くよろしくね!

於手保あきろまんの会「稲刈り」

10月4日(日)、さわやかな秋晴れの下、安芸高田市吉田町於手保で、27組88名の組合員とご家族、「於手保農場夢21」の生産者、JA広島北部、生協ひろしま職員等合計120名で稲刈りをしました。

1反の田んぼは、5月31日にみんなで田植えしてから124日間、農家の方が丹精込めて育ててくださった稲が黄金色に実っていました。長雨でぬかるむ土に足をとられながら、一株一株、鎌で刈り取っていきました。「去年も来たよ」という男の子は、「ちっちゃな精密機械のようなスピードじゃねえ」と於手保のおかあさんに感心されるほど慣れた手つきでした。刈り取った稲は、わらで束ねて、はでに干していきます。

途中、田んぼの端から端まで組んだはでが倒れるハプニング！

「20年やっとなるが、こんなことは初めてじゃ」と。思い出に残る出来事となりました。

あきろまんのおむすび弁当で生産者やJAの方々と一緒に昼食。

午後はさつまいも畑へ移動。小さな子どもたちもいも畑では大活躍。「これ、ぼくが植えたおいもかなあ」と言いながら一生懸命土をかき分ける男の子、「やったあ、大当たり」と言ってその子の顔くらいのさつまいもを持ってパパのカメラにピースサインをする女の子、みんなの笑顔と歓声が響きました。袋が破れそうなほどおいもをいっぱい詰めて、大満足の日でした。

西日の当たる田んぼは、稲がきれいに刈り取られ、組み直されたはでにぎっしりと干されている様子は、心のアルバムに残しておきたい懐かしい、美しい光景でした。



親子で協力して(^^)♪



はでに干した後、みんなで炊いて食べるぞー(11/1 収穫祭)

石見米づくりの会「稲刈り」

9月27日(日)、秋晴れのもと島根県邑智郡のふれあい交流田にて第21回目となる稲刈り交流会がおこなわれました。組合員家族30名と職員家族と生産者合わせ約70名がたわわに実った稲の刈り方を生産者の方から教わり、2時間かけて作業終了しました。その後、石見高原こしひかりの白ごはんと石見牛などを食べながら学習や交流をおこないました。

年間を通してシリーズ(田植え、草刈り、稲刈り)で取り組んだ「米づくりの会」参加者からは、「田の変化を子どもに見せる事が出来て良い経験になりました」、「普段食べているごはんがどのようにして出来るのか体験できて、とても良かった」などの声が寄せられました。



毎年、新しい子どもたちが挑戦！



交流会21年、多くの人に参加して支えてきた歴史ですね(^^)♪



ハートランド 「とうもろこし」収穫体験

7月18日(土)、生協ひろしまの圃場ハートランド(北広島町)で、組合員20家族83名の参加で「とうもろこし」収穫体験を行いました。

5月には自分たちが「植付け」したとうもろこしに名札を付けて帰りました。

収穫直前に台風接近による豪雨のため苗が倒れたり、雨による育成の遅れ、イノシシによる被害も若干ありましたが、当日は好天にも恵まれ、それぞれが植付けしたとうもろこしを収穫できました。



もぎたてのとうもろこしの甘さに、幼少の子どももまるごと1本食べました。現地収穫だからこそ味わえる感動です。



畑では人参の収穫も(^^) みんなもハートランドに行ってみよう!

西城トマト・とうもろこし収穫体験

8月7日~8月9日、庄原市西城町油木で、延べ大人88名、子ども112名、計200名でトマト・とうもろこし収穫体験を行いました。

8/7~8/8はコープ委員長会による開催。毎年人気の企画でバス4台が抽選になります。バスの中では各コープ委員長会が学習会やクイズ大会を実施されました。

8月9日(日)は5月24日(日)に「ミニトマトの植付け体験」を行った3家族も含め80名の方が現地集合。とうもろこしとミニトマトの収穫を行いました。

3日間とも昼食時には生産者の皆さんとの交流も行いました。

前油木営農組合の高原組合長はじめ生産者の方から説明も頂きました。



やっぱり・・・もぎたての甘さにびっくりです。



8月9日はミニトマトも収穫!(^^)!

第 17 回高野牛乳交流会

8月22日(土)、庄原市高野町で、組合員 14 家族 37 名の参加で第 17 回高野牛乳交流会を行いました。

「産直 3.5 牛乳高野・備北の恵み」のふるさと、標高 500m の庄原市高野町の向田ファームへ。口蹄疫(こうていえき)の防疫のため牧場内には入れませんが、牛が飼われている環境を見て空気を嗅いで、飼料となるとうもろこし畑を見学、また特別に生後 2 週間の子牛との対面ができ子どもたちは大喜び!(^)!

飼料はできるだけ自前でと、耕作放棄地を借りての牧草栽培やとうもろこし栽培に力を入れています。「牛の糞尿で堆肥を作り、その肥料で餌を育てる」という循環型の酪農を目指してる姿、また、「家族で目の行き届くだけの頭数しか飼わない」という言葉には、ホントに大切に育てられているということがよくわかりました。



生産者の向田さん、牧場(自宅)のすぐそばがとうもろこし畑です。



牧草の詰まったサイレージの中を拝見! 酸っぱい匂いを体感。

JA 広島ゆたか交流会

広コープ委員長会

5月16日(水)、呉市豊町で、組合員 5 家族 9 名がみかんの摘果作業を体験しました。

今回は応援で委員長会のメンバーも参加。指導員の杉安先生から、はさみを使わず手での摘果方法を教えてもらった後、作業に入りましたが、みんなドキドキしながらどれを摘果して良いか尋ねながらの作業となりました。天候不良で雨雲の合い間で空模様も気にしながらの作業となりましたが、雨粒が落ちてきそうになったため、途中で作業を打ち切りました。

今回、5月に見た小さな花が大きな実になっていて、これが収穫するときにはもっと大きくなっていると聞いて、次の交流会がさらに楽しみになりました。

次回は 12 月初旬の収穫交流です。



作業前に説明を受けています。



「上手にできるかなあ」